

觀自在

弘長寺寺報
第二十八号
平成二十六年
二回発行

ああ、感動！弘長寺開基様

「藤原満資公」に埼玉県で出逢えました

あけましておめでとうございます。

平成二十六年の幕が開きました。

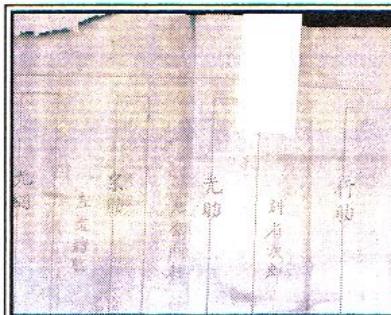
昨年は住職にとつて寺族：妻春美を亡くした辛い年でありましたが、本年は平穏な年になりますように祈りたいと思います。

弘長寺住職 森田裕光

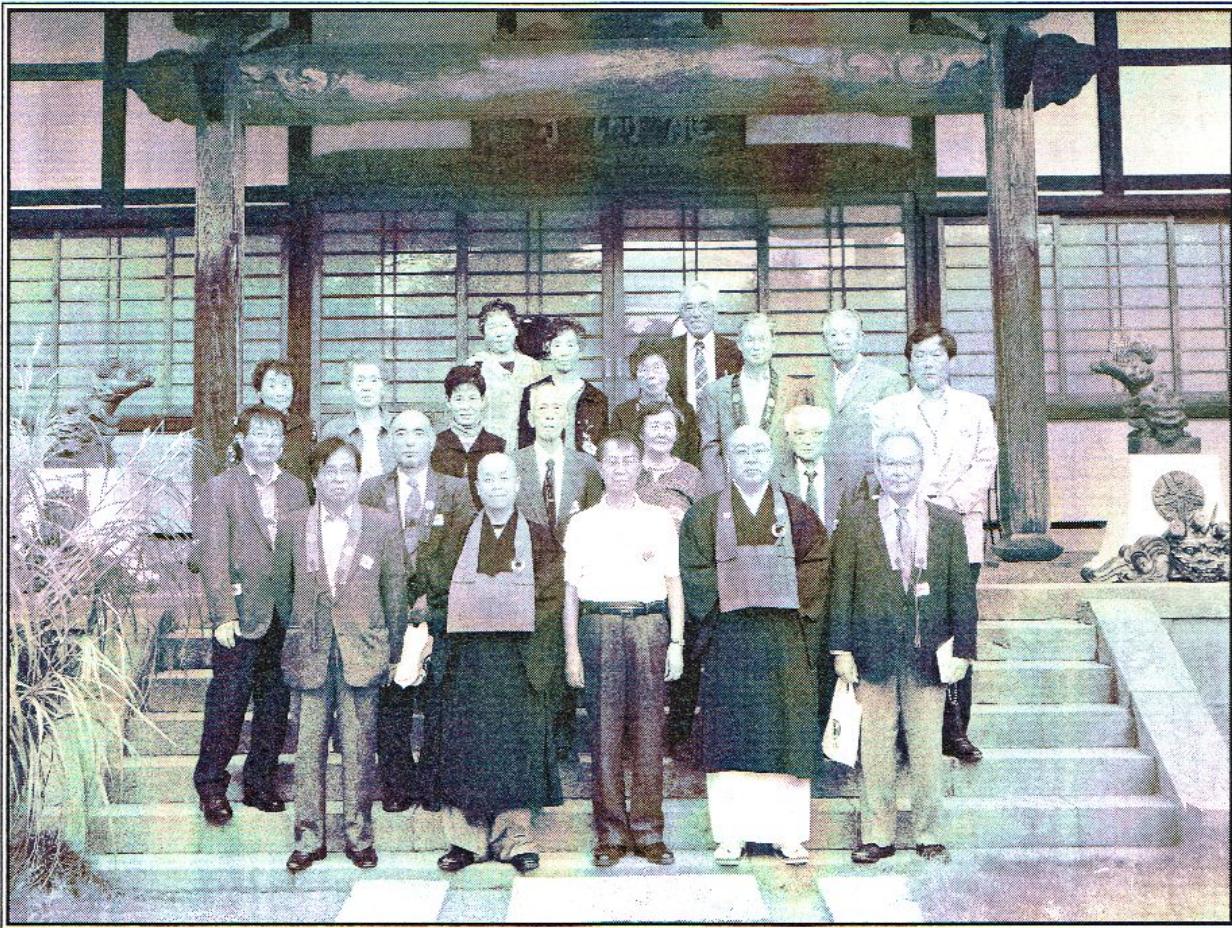
昨年十月九・十の二日間、護持会主催・弘長寺開基「藤原満資公」のルーツを求める旅に出かけました。

折しも台風二十四号が九日朝に島根県沖を通過、空港出発は午後遅くなつてからと思われたのですが、何とほぼ定刻通りに飛び立ち、目的地の龍淵寺様にて、近年火事で全焼した伽藍から奇跡的に焼け残つた成田氏（本姓藤原氏）系図に出会え、「光助」（改名前）の名を確認できました。

同行した妻の位牌を抱き、天候回復への祈りが仏様に届いたのでしょうか。島大名誉教授、井上先生の御指導を仰ぎながらの素晴らしい研修旅行とな



埼玉県熊谷市龍淵寺様にてご住職と共に
前列中央は井上島大名誉教授



新年のご挨拶

弘長寺護持会
会長 武田民三

敬持先目
のち祖の本
と念は様正堂
思をいへ月大
い一よのを改
ま層い報迎修
す強よ恩え落
く深感、慶
なま謝皆か
さりの様ら
れ、おの二
た崇氣ご度



弘長寺護持会の皆様、明けましておめでとうございました。新春を迎え、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申しあげます。

資源やエネルギーの消費を抑える生活習慣を、宝ものとして子孫に残したいものとします。手を合わせ祈る心とともに、親としてそれを実践する姿で示して見せる」とで、受け継いでもらえると信じます。

のとなつて来て いますね。

が最も新しくすること

本年が皆様にとり、至福の年でありますように心からお祈りし、新年のご挨拶をいたします。本年の年がとなり、よいよ仕上げのときを迎えます。檀家皆様の真心が円成結実するときであります。共に慶び合いましょう。



自然を礼拝し、その恩惠に感謝して育てて貰う。親とおなじ使命であるとおもふ。

然年に新しい年を諸仏に感謝します。しかし、この一年は、いと念じています。

（森羅万象と悉有仮説の性）

（森羅万象と悉有仮説の性）

イネをはじめ、ヤサカイ、山野の草木や果物介物が、人昆家と共に生きています。

被災をはじめ、島根、県西、全国部が各地洪災であります。はりで水害をはじめに幸いに来侍で免たれました。

夏の猛暑に見舞われました。大きな秋となりました。

豊かな里づけ

太古から脈々として続けられた。豊かな里づけ

られて來たら、豊かな里づけ

の賜物です。

五
年
み
な
さ
ま
い
成
し
て
新
い
ま
す。
年
こ
二
を
も
十

弘長寺護持会
副会長 坂本研次

新年にあたり

改修になつた本堂の屋根が立派になりました。境内もきれいになりました。平成二十六年度をもつて改修建築事業費の拠出を了えますよろしくおねがい申しあげます。

今年が平和で、お寺をはじめお檀家各位にとつて良い年でありますようお祈りいたします。

お知らせ

お願い

合掌

現在食事療法と運動で治療中のため、今後は仕上げの席は遠慮させて頂きます。ご了承下さいませ。

本堂でのお寺詣りが終わります。又、徒弟大裕も同じく遠慮させています。

●ご法事での仕上げの席にはつけなくなりました
大変申し訳ないのですが、住職は糖尿病と診断されました。

●葬儀には大裕を必ず役僧につけます。葬儀は必ず役僧につけます。又四十九日だけは必ず二人で参りますので、よろしくお願いいたします。

現在七日参りや上げ法事、そして宅行き法事もどんどん行かせております。

まだ駆け出しで一人前とはいかないですが、どうか温かい目で見守つてやつてください。

●転読大般若祈祷会を行います

本年も転読大般若祈祷会を厳修いたします。

四月十三日(日)午後二時から法話はいつもの通り住職が行います。

近づきましたらご案内いたします。

当山寺族・春美本葬

八月十日、当山寺族・住職妻・春美が五十六歳の若さで他界いたしました。

三月頃から不調を訴え、中々原因が判らず、市立病院の再検査で「膵臓癌」が判明しました。

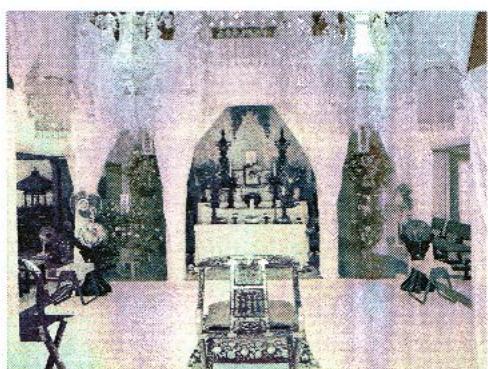


脾臓の裏側に大きな癌腫迫しが、黄疸がでて、胆管を圧迫しつつ、壮絶な闘病となりました。

どうしても帰りたくて、医者の止めるのも聞かず、六月に約一ヶ月帰宅しましたが、もはや消化機能が破

難て方・寺資賜り、ご参列いただき、ご焼香を賜り、またご丁重なご焼香を賜りました。皆様方にし様並に誠意的にた級護院に通じて有りいの会ご香火を上げます。

掲載本葬、護持会長の弔辞を



壊されていて食べ物は喉を通らず、激痛・おう吐の悲惨な毎日でした。七月医大へ再入院して、市立病棟へ移つた後、松江八月亡くなつて念しながらとうとうとしまいました。

弔辭

謹んで弘長寺寺族、森田
春美様の弔辞を述べさせて
いただきます。

転手ノ私くへさ
院術ののも入れて本年三月頃
されの為いと妻先年他界されて
まし出雲診断病いためか
た。島を下市立病院を崩
根医され、大がたに奇形を呈
へ、ガタ

ら戻られて、これから安泰の時期を迎えるとする矢先に、アツといふ間に満五十歳という若さで黄泉の道に旅立たれました。

春美様が小学校五年生の時に先住・大聖方丈様がお父様としておいでになり、新しくできたお父様を大変うれしく思つていらつしやつたことを述懐されていまし

現在の春美様二十六歳の時に、
現れ結婚され、一男一女を
派した。それで大聖方生活も安定しま
して、伽藍方生活も間はなく老朽化

私も七月末、何とか直接お見舞をすることが叶つたのですが、その時は体調も良く、笑顔で一緒にアイスクリームをおいしそうにお食べになりました。その時の笑顔を忘れることができません。

念願の本堂大改修を了え、和尚様も永平寺の修行か



見受けしておりましたが、久美子様の老齢化とともになつて徐々に開眼(かいがん)され、近年は御詠歌(曹洞宗婦人会の重要な族会やお寺の奥様と)で受けられ、お寺の奥様とお力を發揮されしまいました。遺憾なくおもみじに弘長寺を「もみじ露寺」といふ想いを叶えていました。

また大裕和尚様という後
継者にまで恵まれたことは、後
結果的には短い生涯であら
れただけれども、仏縁による
最高に幸せな人生であられ
たと確信いたします。

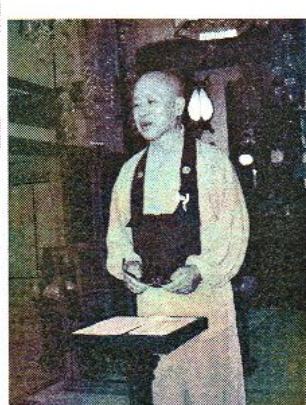
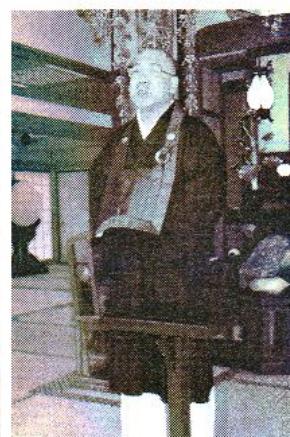
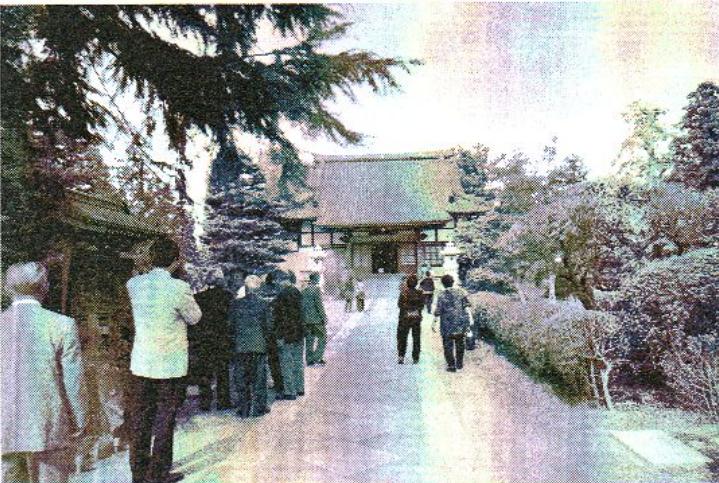
埼玉・龍淵寺、忍城

護持会研修旅行

住職

出発前日八日、BS観光車谷さんと私は共に危機立つのか？」

一ヶ月前、第二教区主催護持会研修バス旅行が台風・はたで順延されたばかりだつた。最も強い台風に変わりえはた最強の速五十がやや衰



進路が、九州北部から島根県へ直撃との予想がされてしまいました。最終便が出雲空港に到着しましてさえいれば、九日でのお着目が過ぎて遅くなつてしまふでしょう。それに賭け出しに發昼で起きるから、それに賭け出します。

その時は忍城見学はやめにしましよう。」

羽田到着からは、中型バスに乗り換え一路熊谷龍淵寺様へ向かいました。到着すると、口から生まれられたであろうガイドさんのユーモラスで絶妙なガイドを心地よく耳にしながら渋滞もなく順調なバスの旅でした。

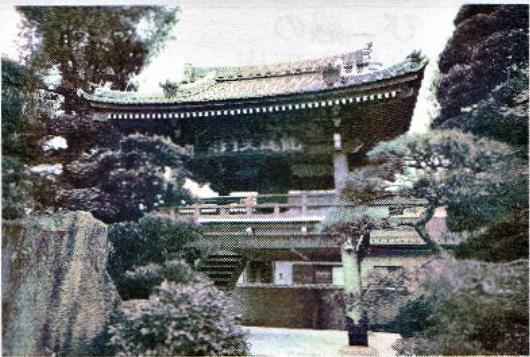
車中にて島大名誉教授井上先生に講習をしていた。

「別府成田氏に、字が違うのだが、光助(ミツスケ)という人がいる。」

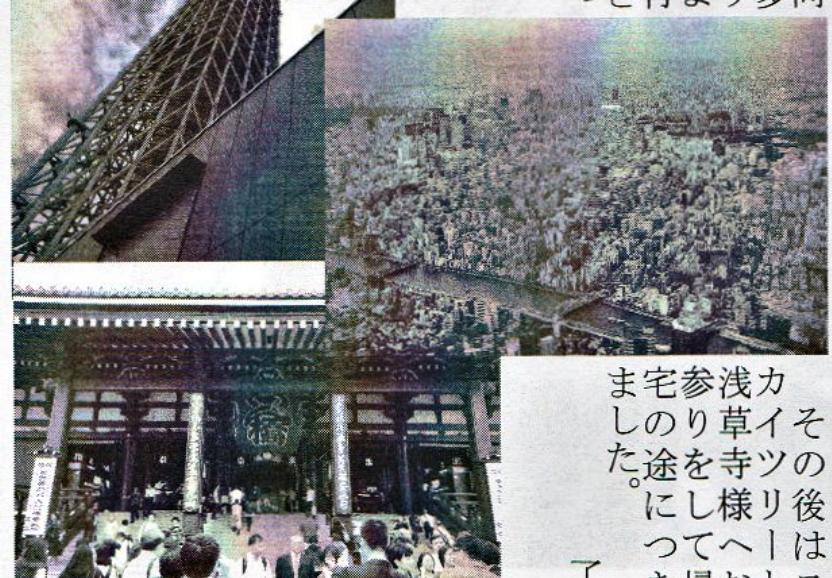
「その時に、

「別府成田氏に、字が違うのだが、光助(ミツスケ)いう人がいる。」

2014年新春



龍淵寺様を後



この人が弘長寺の開基になつた可能性が高い。」との講習でした。本当に目からウロコのお言葉でした。
頑丈に、満資（ミツスケ）の文字しか脳裏にはなかつたからです。この講習がなければ、龍淵寺様で系図を見せられても、ああそうですか、で終つてました。井上先生に随行して、いただいてつくづく良かつた瞬間でした。

感概無量の面持ちで本堂にてお勤めをさせていただきました。成田家代々のお墓にもお参りが出来て、書院にてお見受けました。茶をいたただき、寺宝をお見受けました。大変な歓待をされたいただき、「光助」の文字を確認しました。書院では系図を見せていました。院長は「光助」の頭が熱くなりました。

百がりまきは
石出『すを』と
の来心が喜出こ
て御るおゝば家ろ
ます朱よき翌ずのが
す印うな年『身呑
。をにく家とは雪
賜『修康断財和尚
つと行より多尚

昭和二十五年の火災で伽藍が小さくなつたそうです。かなり広い境内です。

ま宅参浅力
しのり草イそ
た。途を寺ツの
にし様り後は
つてへ一は
了き帰おとス

「この人が弘長寺の開基になつた可能性が高い。」との講習でした。

亡くされると、不思議な因縁を感じました。更に奇遇なのは、屋根が力ナメの段付き本葺き銅板屋根で、改修時期もほぼ弘長寺と同じでございました。

資藤原本姓を名乗り、名を満資（ミツスケ）と改めたことありますよう。

にして、「のぼうの城」で有名になつた成田氏の行田忍城博物館見学。

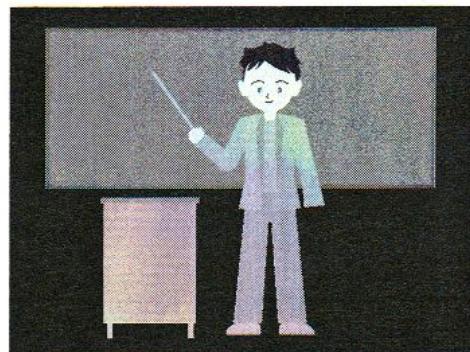
正伝の仏法を

（禁断の領域に入り込んでみる）

・信することほど
難しいものはない

住職

確かに小学校5年生の時だったと思う。



算数の授業で、担任の先生が教室に入るなり問題を黒板に書き、「この問題が解けた人に限り、この時間では運動場に出て自由に遊んでもよい」とのこと。

おかしいなーと思ひながら検算をするのだが、自分では間違っている箇所が見当たらない。全員が持つて行くのだが、全員×マークをもらっています。

私は「この時間イタダキー」と、いの一番で先生の所へ持つて行つたら、即×マークを喰らいました。

先生それはないよー、だつて先生は絶対だと信じていったのにそれはおかしいよー、とその時に思つたものです。

くよくよく自分の眼と資料や証拠により得心して臨め、と私には理解出来ます。当にこのことでありましょう。



この時の衝撃は大きく、いまだにその時の事を鮮明に覚えている。

正しいと思つたらその思いを通すべきだということ、何事も、何人も簡単に信じ切つてはいけないといふことの二つを同時に学んだ。

この例話をある布教研修会の場で実演発表したら、さちや先生が早速自著の本に載せられていた。

道元禪師様は柔軟心が奸容と示されている、安易に信じ込まず、よ

この件以後、私は何事も簡単に信じ込まない作法を身につけたと言えます。その作法により最近の宗門を見ていると、信じられないどころか開いた口がふさがらないことがあります。

この件以後、私は何事も簡単に信じ込まない作法を身につけたと言えます。その作法により最近の宗門を見ていると、信じられないどころか開いた口がふさがらないことがあります。

・なんたる体^{てい}らくぞ

週刊誌や新聞で大々的に報じられた多々良問題や駒沢大学問題です。

詳しく述べることは控えますが、宗門の大好きな人々が間もなく裁判決では敗訴、控訴した地裁がほぼ確実であり、莫大な賠償金支払いも待つていています。

「ヤツター」と全員大喜びです。確かに三桁×三桁のかけ算の問題でした。

授業の最後に先生がこうおっしゃつたのです。「今君たちが持つてきた答えは、全部正解だったんだよ。」その合つてる答えを、い『この答えは絶対合つています。』これを違うというのなら、先生の方がおかしいんじゃないか』つて何故言えないんだ。』と叱られました。

住職は考える



正・果たして道元禅は本當に
伝の仏法と言い切れるの
か?
私は道元禅師様の仏法は
確実に最高の仏法であろう
と思つています。
それは間違いありません、
しかし最高の仏法が万民に
適安ふさわしい、万民が誰でも
いた別問題であるかどうかはま
います。題であるとも思つてま
す。
喻えがあまり良くないの

宗議会も日本のお政事と全く一緒で、新人議員など意見は通らず、一部の狡猾な長老議員達による醜い人脈と汚れた金脈で動いていたのです。

これで「宗門を信頼せよ、曹洞宗は将来性がある」などといふ方が無理な話です。更にもつと驚くべき事態は、その不祥事に對して一般宗侶から怒りの声があまり上がつてこないことです。元はといえば、お檀家様から頂戴している大切な宗

この問題ばかりで、夢も現れなくなっています。考な柔軟心の教義が宗門の教義で、もともと信じ込まない作法で、頭ごしをされてしまうことがあります。恐らくタブーの領域なので、お上へお詫びの形で、叱りを受けること覚悟なのです。

信じてお任せしているのは
ずの宗議会や宗務庁は何をは
か。くれていいんでしょう
か。宗議会も日本の政治と全
く一緒で、新人議員など全
意見は通らず、一部の狡猾
な長老議員達による醜い人
脈と汚れた金脈で動いてい
たのです。

費をドブに捨てるような行為に對して、怒らない、怒りを表現しようとする。いふのは、住職としてお檀家様に對して無責任極まりない行為だと私は思うのですが。

大切な学校や宗費を失い、一方では本山の遠忌だ修復だと平気で高額な寄付を次々と募る、最近の宗門には心底失望しました。

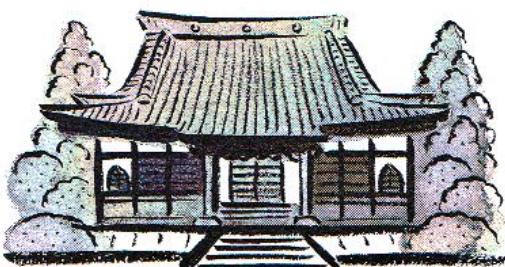
「この時点で宗侶といなうように道元氣が信して、宗侶としていなうように道元氣が引けたのであるが、私はささやかななりませんのうにんのうでお間ははかが様違決えのないよ」

得るものの修行なり東大院クラスといふ現象が起きて、それと同様で、仏道修行の理解に大いに貢献した。たゞ、この「不入学者」の現象が起きて、佛學院は、その名前を「東大院」と改められた。

ですが、東大が、日本で最高の学問とはハ「バ」ド大大学院だとします。

様をお説きになるよう要請しました。後、お釈迦様は「この悟りの内容は、他人に話しても理解できないだろうし、伝えるのは困難である」と固辞されていましたが、

は、果たしてお釈迦様の仏法
かいに禅で、確かに坐禅なでのでしょ
かれた時に明暝想を菩薩提樹下六年間の苦行の後
ました。忽然星れ、八日目朝坐の間にて七日間
とお悟りを開輝とキラッとした。
その後納得です。しかし問題は



つまり、人を悟りに導く
ためにお釈迦様は坐禅といいう
方法を用いておられないの
です。あくまでも説得・説法に
よつて悟りに導かれていらっしゃいます。

私は思うのですが、梵天
を勧請以降はお釈迦様は坐禅
されなれば重々重要視しておら
ないような気がするのです。

何故なら、お釈迦様が本

すや最苦行が初めされたり。慈悲の心をもつていたお釈迦様を羅奈国へ二百km離れた鹿野苑（波羅奈）を目指し、そこで修行僧（最初の説法）は（修法輪）に定められました。

いれとら集釈と當
のばいれへ迦思に
でなうたけ様わ坐
すら言経つれ禪
。な葉典じ教たこそ
いがに、うを最高の
は表も確あれの
ずれも認られ修
なてつを基すば修
のいとにな坐する
にな坐する行
無け禪作結お法



そして歴代祖師を見ても、
坐禅が出てくるのは菩提達磨以降です。それまでは坐禅を重んじた形跡がないのです。

ここで、ひろさちや先生の言葉を借りれば、大乗仏教におけるお釈迦様は、仏國からおいでになつて仏

私と同じように悟るなど
ということは、凡夫に簡単
に出来得ることではない。
しかも悟りに重きを置け
ば迷いの道に入りかねない。

お釈迦様の足跡が仏道(正伝の仏法)であるなら、道元様の足跡と比較するといたします。

林精舎勿論雨期の祇園精舎等では坐禅もなされぬ。それで資料とと思ふのではありますまい。それで確かではありますまい。

伝道布教つまり「説法の旅」でございました。

つまり悟りを得るために、私は禅修行が重要ではな
く、その悟つた「真理」こそが尊いのです。
人間として生きる最高の「生きく」の
方の「大事」だといふ。う生くの
ことではなないでしょか。

同が釈ぎを坐
様な迦な悟る禪
様かるは自、の分
つにつたは
た。とため
つて悟手に
（蟬もつ段とつ
のはたにして
抜け必はか真
殻要お過理



はい護基やの私
なのりづ一だがお
いだ、く般か代釈
かとそ眞のら、表迦
とのれ理方、し様
と思をのは後てに
いい修教、に真し
まだ行え私続理て
す。つすやのくをみ
たれ戒悟修悟れ
のば律り行つば、
でよをに者た

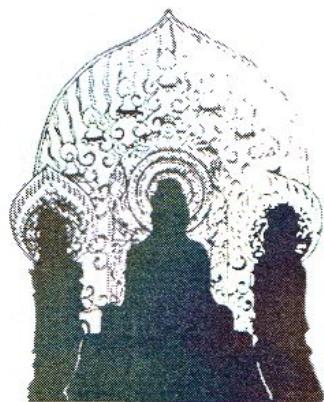
住職は考える

す能へだ理かす受
か性私き論らが、'けそ
らものた的) そのうな疑な箇所でありますま
大方いな根拠を教えます。たうすま
きがの間違つていています。たうすま
い間違つていています。たうすま
と思つていています。たうすま
つていています。たうすま
いる可



天童寺における修行は、二(宵)間に二つの三點よりおきて坐禅する。今まで坐禅し、三點まで坐禅し、四點(あかつきは)まで坐禅す。

決して説法の旅：万人に導対し遊行説法をせよとの指揮ではありませんでした。ここが決定的にお釈迦様の行履と異なる点です。



れほどまでの厳しさには
や我々の日常底は道元様
爪の垢ほどもありません。

正師である如淨禪師様の教えは絶対だ、と思われたに相違ありません。そして「不離叢林」（生涯修行道場を離れず）とおつしやいました。

他の講習には申し訳な
かつたが、講義後の休憩時
間を潰してまで延々と答え
て下さった。

しかしながら解説語が並び、
十五歳で駒沢大学でお坊さん
の私にとつては全くやんばりに三
教科を学んだ経験の全部が、
當時の私の答えでありました。

あとがき

今回も宗侶を意識しての論調となり、お檀家様には少し難しい文面になります。申し訳ありません。

宗門への失望が大きく、遠自らも悟りの境涯などほどけがなく、必然的に憤りのはけ口を見つけ、若干過激な口調で文章となってしまいまして。しかし、私は問題意識を持たないような僧侶は存在価値がないと思っています。

だからたとえ、現在の役職を剥奪されようとも、私役は言いつぱ何としても解き疑問に思つてあります。

乞諸大德 慈悲容納